

橋下氏の維新政治は「ブラック・デモクラシー」である（２）

京都大学大学院教授 藤井聡

■ ブラック・デモクラシー

= 詭弁・ウソを全肯定した「多数決至上主義」と結託したデモクラシー

⇒ 真実や善や正義が全て踏みにじられ、
「ウソと悪が徹底的に正当化」される

= 「詐欺」と「テロル」を通して形成される 「全体主義」 と同じ

■ ブラック・デモクラシーの３要素

（１） **多数決崇拜** ：多数決の結果こそ崇高なるものだと主張する。

（２） **ウソと詭弁（＝プロパガンダ）**

「大阪都構想」詐欺 ～大阪都！ といいつ、実は単なる市の廃止・解体。

「二重行政」詐欺 ～数千億の効果、大阪発展！ といいつつ、実際は１～数億

「閉店セール」詐欺 ～ラストチャンス、だから都構想に賛成を！ でもすぐ再挑戦

「負ければ即引退マッチ」詐欺 ～負ければ引退！ といいつつ復帰を匂わす言動

「おおさか」は大阪じゃないんだよ詐欺 ～…でも、皆には「大阪」だと思わせてる

「お金は全て国に返すよ詐欺」 ～…でも５億の借金返済に使って、返すのは１億だけ

「正々堂々“公開討論”詐欺」 ～…でも、ウソと詭弁を駆使した、単なるケンカだけ

「僕って法律の専門家なんだよ詐欺」 ～…でも、法律の専門家からみれば、詭弁だらけ

（３） **言論封殺（＝テロル）** ：あらゆる権力を駆使して「言論封殺」を図る。

・（ツイッター＆記者会見を通した）大衆扇動を通した批判者バッシング（多くの学者）

・「批判者をTVに出すな！」という圧力文書を通したTV局・批判者に圧力をかける

・「国会」を通して、批判者・TV局・大学に圧力をかける

・私信の極秘入手（傍受？）と公表を通して、TV局・批判者に圧力をかける

以上

(付録) 学問こそ、ブラックデモクラシーを打ち破る最大の武器

■学問とは 学問の起源は、「ソフィスト」(詭弁家＝ウソツキ)との戦い。つまり、学問とは、「デマ」で政治が動かされる世の中で、「真実」を見極め、それに基づいて「政を行う」ための営為。(※ 洞窟の比喻・哲人統治の思想)

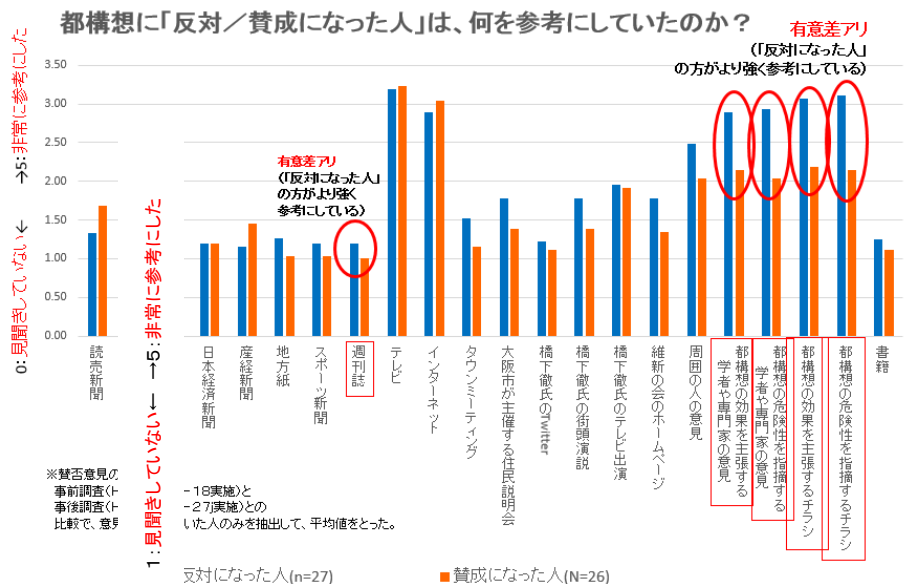
■「橋下維新＝詭弁家・うそつき（詐欺師）」説の豊富な根拠

- －都構想は「ラストチャンス」「ワンチャンス」 → 都構想を公約に
- －「政治家二度としない」→「復活するかも」と発言
- －「二重行政は数千億ある。都構想の全て」→「主たる関心事じゃない」
- －学者記者会見は「全部デマ」
- －住民説明会の数々の「詐欺パネル」 等

■だから、橋下維新は学問におびえている

※ 詭弁化・うそツキ・詐欺師の最大の敵は「真実」

※ 事実、都構想到「反対になった」人々は都構想の「真実」に触れた人々だった。⇒これは、詐欺師に引っかかりそうになった人々が、真実を語る人に触れ、目が覚めたことで、詐欺師の提案に乗らなくなった、という状況に等しい。



■だから、橋下維新は「学者」「学問の府」を目の敵にし、徹底的に封殺・弾圧する。

※ これは、全体主義における極めてオーソドックスな展開。

平成27年10月16日

申立書

放送倫理・番組向上機構 御中

大阪維新の会 事務局長 喜多義典

放送局 ABC朝日放送

番組名 おはようコール

放送日時 月曜から金曜 AM5時から6時45分

平成27年11月22日には、大阪府知事選挙、大阪市長選挙が行われる。

現在、大阪では、大阪維新の会所属の候補予定者と非維新勢力が結集して支援する候補予定者が激しく論戦しているところである。候補者のみならず、大阪維新の会と非維新の政治団体同士も激しく論戦している状況である。

.....

事実としては、別添1にある通り、藤井氏が、特定の候補者や特定の政治団体を利すること、または特定の候補者や特定の政治団体を不利にすることを目的としてテレビ番組を利用しようとする意図を有していることである。

標記2番組は、大阪維新の会や大阪都構想の話題について随時取り上げ、藤井氏も番組内で多数コメントをしている。藤井氏の言論は保障されることはもちろんだが、別添1を基に社会通念に照らせば、藤井氏が出演する番組が、特定の候補者や特定の政治団体を利すること、または特定の候補者や特定の団体を不利にすることに利用されていると推認せざるを得ない。

このような状況下で、藤井氏を番組のレギュラーコメンテーターに起用し続けることは、放送法4条に抵触するし、少なくとも放送倫理上問題である。

誤った断定。

「誤った政策の説明を、正す」という意図を有しているのみ。そのために各党が有利不利となるのは、単なる「結果」。

(もちろん、デマを喧伝する党は、結果的に不利となるが、それは結果)

放送法四条に抵触しない

放送法四条は、「番組」「放送」全体の公平性。出演者個人の公平性を問うものではない。

(しかも、当該番組の藤井発言も、実際の編集プロセスもは至って中立)

「橋下維新による藤井出演番組BPO申し立て」についての論点

◆「私信」が実際なら藤井出演「番組」は放送法に抵触しているか？

◆「私信」が実際なら、藤井はTVに出演してはいけない者か？

※ 維新は「藤井氏を番組のレギュラーコメンテーターに起用し続けることは、放送法4条に抵触する」と断定。

◆「私信」の「入手_(傍受)」において「法律違反」は無かったのか？

◆「私信」の「公表」は、明確な憲法違反を含む法律違反である。

◆「維新」の「私信」公表・BPO申し立ては「言論弾圧」か？

(今、藤井の私信が全て維新側に傍受されている可能性を、
当方も周りのものも否定できない状況)

「私信」で解説されているアドヴァイス

= 公約内容をより正確に伝えるためのアドヴァイス

(当初)

維新：副首都とIRで「国際エンターテインメント都市 & 都構想

自民：リニア交通網で「近畿メガリージョン」 & 大阪会議

「政策構造」が不明瞭（都構想の役割が分からない、大阪会議とメガリージョンの関係が分からない、メガリージョンをどう作るかが分からない）

これでは、公約の中身が、正確に視聴者に伝わらない！

(アドヴァイス後)

維新：副首都とIRで「国際エンターテインメント都市

← 都構想 + おおさか維新の会で実現

自民：リニア交通網で「近畿メガリージョン」

← 与党の力 + 地域間連携で実現

放送局へのBPO申し立てを契機とした、 藤井を対象とした嫌がらせ・バッシング

藤井教授、あなたにはっきり言うておく。

今回の件、あなたは実は「悪く」はないのだ。**絶望的にバカ**なだけで、悪いかどうかで言うと、別に悪くはないのだ。なので維新も、BPOに対しては「ABC放送」を相手に申し立てをしているのだ。あなたがどんな個人的感情を持とうが、勝手だからだ。

が、**あんた**、大阪自民を応援してるんだろ？
あんた、維新をたたきのめしたいんだろ？

「京大・藤井教授のメール全文を読むと、ガチで頭が痛くなる文面だった件」(長谷川豊公式ブログ 2015年10月19日付け)

吉村市長候補からも同様に 放送局でない、藤井個人に対する非難



吉村洋文（よしむらひろふみ）



@hiroyoshimura

+ フォロー

藤井氏のメール内容が事実だとしたら、あまりにひどい。政治家は自分の人となりや主義主張を知ってもらうため、地べたをかけずり回る。僕自身、毎日クタクタだ。会える人数も限られる。しかし、放送局の電波は一気に何百万人に伝えられる。それをこの時期に片方に偏るように利用するって許されるのか。

238

リツイート

117

いいね



7:29 - 2015年10月17日